

歯科 News & Topics デンタルビジョン『歯科医療経済』改題

DENTAL VISION

6

【特集】補綴のチーム医療を再考する

歯科医師、歯科技工士の新たな連携で作り上げる、デジタル化と人材減少時代の補綴物



定価1,000円+税

【Message】日本歯科医師会 堀憲郎 会長

【TOPICS】

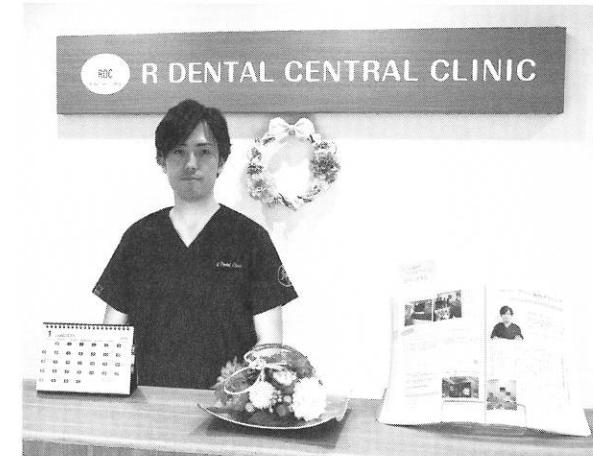
- 認知症患者の義歯治療ガイドライン作成のための公開パネル会議／日本老年歯科医学会
- 口腔機能発達不全症の考え方／日本歯科医学会

【好評連載】

- 未来を読み解く歯科医療経済学／川渕 孝一 ● 口の中から見た未来／岩附 勝
- 「Yes! 歯科医療」二代目はつらいよ／高須 久弥 ● 口の文化考／湯浅 高行
- よくわかる・臨床に役立つ 歯科材料学の話／早川 徹 ● かんず四コマ歯科医院
- 病院歯科つれづれ日記／大矩 素紀 ● アラデンCulteruClub ● 現役歯科美女図鑑

良い補綴物は良いチーム医療から生まれる

医療法人RDC 酒井亮理事長
K・Sファクトリー株式会社 上倉章宏代表



酒井 亮／さかい りょう
日本歯科大学卒業
医療法人 RDC 理事長

歯科医師と歯科技工士の信頼関係は、何より技術の裏付けによって構築される。かつては歯科医院から届けられたマージンが出ていないような模型をもとに、「勘」や「匠の技」といわれるような歯科技工士による過剰な負担で補うという、不自然な関係性や行き過ぎた上下関係がまかり通る時代もあったというが…。

医療法人RDCの酒井亮理事長は10年以上前、まだ勤務医の当時から強く感じていたこと。現在運営する4ヶ所のクリニックが提供する補綴物は、いずれも地域の患者さんから高い評価と信頼を集めている。開業当初から、若いドクターには積極的に歯科技工士とコミュニケーションをとるよう指導していたといふ。酒井氏に、患者さんに喜ばれる補綴物を作るために歯科医師と歯科技工士がどのように協力すべきかについて、伺った。

補綴はチーム医療

—昔は歯科医師と歯科技工士の間に強い上下関係があつたとよく言われます

酒井 補綴はチームとして進める作業です。削る人、型を取る人、作る人が揃つて初めて成り立つ仕事ですから、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が力を合わせなければ良い補綴物はできません。

われわれがお願いしているラボでは、自費と保険の変わりなく、しっかりと仕事をしてもらっています。たとえば、常にスペーサーを薄くして適合の良いものを作るように努力をしてくれます。スカスカにしておけばセット時に入らないといふことはないでクレームにはなりませんし、歯科医師もセメントを多く使えばいいだろうという考え方の方が少くない。でも二次カリエスのリスクは間違いくらい高いわけで、患者さんのためにはなりません。

一方、適合の良いものを作ろうとして入らなかつた時、現在の保険制度では再製すれば歯科技工士はタダ働きになってしまいます。したがつて、歯科医師が適合の良い補綴物を要求するならば、それに見合つただけ

は、何より技術の裏付けによって構築される。かつては歯科医院から届けられたマージンが出ていないような模型をもとに、「勘」や「匠の技」といわれるような歯科技工士による過剰な負担で補うという、不自然な関係性や行き過ぎた上下関係がまかり通る時代もあったというが…。

酒井 若い勤務医の先生がクラウンを作る時に、マージンのラインが出ないということがよくあります。が、要是削り方と印象にあります。歯科技工士は模型だけを見て判断するわけですが、削ったドクター本人は、「歯ぐきの下まで削ったよ」というわけです。そこで、想像しながら作つてみると合わなくて入らない可能性があるが、見えるところではれば境目が見えてしまふ、ではどうするか。一番確実なのは再印象することですが、患者さんにもう一度来院していただかなければならぬので、これは極力避けたい。では勘で上手くできるのか…。

歯科医師と歯科技工士のつきあいが長くなれば、この先生はどこまで

信頼関係から生まれる「匠の技」

—での悪い模型を「匠の技」でカバーするという言い方がありますが、要は削り方と印象にあります。

歯科技工士は模型だけを見て判断するわけですが、削ったドクター本人は、「歯ぐきの下まで削ったよ」というわけです。そこで、想像しながら作つてみると合わなくて入らない可能性があるが、見えるところではれば境目が見えてしまふ、ではどうするか。一番確実なのは再印象することですが、患者さんにもう一度来院していただかなければならぬので、これは極力避けたい。では勘で上手くできるのか…。

歯科医師と歯科技工士のつきあいが長くなれば、この先生はどこまで

削るのか、というような癖も徐々に分かつてくるわけです。それは、根拠のない「想像」や、適当という意味での「勘」とは異なるものだと思

います。

—開業した当初、若い勤務医の方には出勤前にラボによつて自分が出した技工物をチェックしてくるよう指示していたと聞いていますが

酒井 補綴物に関する勤務医への指示は今でも続けています。

つい最近も、若い先生が前歯を形成して石膏を注いだ模型を見てみると、印象が出ていないのではないかと、印象が出ていないのではないかと不安がある。案の定ラボから、「自費の治療なのできちんと作りたい」と再印象の要請がきました。ドクターから患者さんにお詫びをさせて、再来院をお願いしましたが、こうしたことも若い先生が成長するには必要なことだと思います。

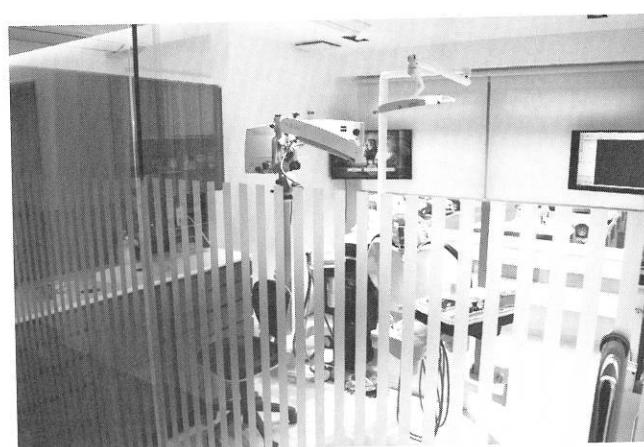
—デジタル化への対応は

酒井 光学スキャナーは興味はあるますが、高額なのでまだ導入していません。当法人では4ヶ所のどのクリニックに行つても同じ治療を受けられることが目標なので、もしスキャナーを入れるなら全てのクリニックに、と考えていますから、まだよつと厳しいかなと。新しい技術はどこよりも先に導入するか、普及が進むことは間違いないと思いつつもアンダーカットが少しでもあればできませんし、手で作つていたメタルボンドならばある程度合わせて

—CAD/CAMの評価は

酒井 今後ますますデジタル技術の普及が進むことは間違いないと思いますが、まだ適合などには満足できないところがあります。形成についてもアンダーカットが少しでもあればできませんし、手で作つていたメタルボンドならばある程度合わせて

もし導入すれば、各分院でスキャニングしたデータを、ネットを介してラボに情報を送ることもできますし、分院のデータを本院でまとめる





K・Sファクトリー株式会社の上倉 章宏代表（左）
良い補綴物を生むには良いチーム医療が不可欠

上倉 大切なことは、どれだけ歯科医師と歯科技工士が密にコミュニケーションを図るかだと思います。私も努力はしていますが、忙しさやタイミングもあって、ひとつの補綴物を作るために必要な情報を得るためにコミュニケーションの時間が十分とは言えない感じでいます。

模型をもとにして作ったものが上手く入らないというような場合、患者さんの口腔内を実際に見させていただければ、何が問題だったかとい

—よりよい補綴物を作る上で、いま足りないと思うこと、もっとこうした方が良いことは何でしょうか

の内容を知つていれば、例えば、上顎7番の遠心の印象が採れていないというような時、この部位は採りにくいということを歯科技工士が知つていれば、再印象をどうするかの言葉一つも変わってくるのではないでしようか。感覚の違いやズレを少なくするために、歯科治療の現場を見てほしいという思いがあります。

一方、歯科医師が昔のように自分で技工作業をすることは、ほとんどなくなりました。ただ、どのようにして作るのか、どれくらいの時間がかかるのかということは、歯科医師も知つておくべきでしょう。安易に再製を頼むことはできないことを理

解していれば、若い先生がもっと丁寧に印象を採ることを心がけるようになるはずです。歯科技工のことを見知らずに簡単に考える若い先生が多いのではないかと、それが多すぎるのでないでしょうか。

最後に、酒井理事長の仕事を受けたラボ「K・Sファクトリー株式会社」の代表を務める歯科技工士の上倉章宏氏に、よりよい補綴物を作るためには何が必要かについて聞いてみよう。

歯科技工士は、自分が作ったものがどのように患者さんの口の中で機能しているのかを見ること、知つておることは必要だと思います。

ただし、むやみに歯科医院にて立会いと称して見学ばかりしては、仕事になりません。どれだけ効率よく、実のある「コミュニケーションを図るか」ということも、仕事の技術の一つだと思います。



表1 歯科技工士の求人状況

年度	求人件数	求人数	求人倍率	卒業者数
平成10年度	4,817	10,105	3.9	2,607
平成11年度	3,633	7,575	3.0	2,492
平成12年度	4,138	9,014	3.6	2,530
平成13年度	4,117	8,422	3.3	2,563
平成14年度	3,949	8,670	3.7	2,333
平成15年度	4,098	9,464	4.3	2,209
平成16年度	4,130	9,519	4.2	2,272
平成17年度	5,131	15,796	6.9	2,280
平成18年度	5,756	16,624	8.2	2,018
平成19年度	5,924	16,287	9.6	1,693
平成20年度	5,298	15,940	11.0	1,443
平成21年度	4,887	14,410	11.0	1,308
平成22年度	4,528	12,087	9.8	1,231
平成23年度	4,997	12,919	9.9	1,309
平成24年度	5,025	13,118	10.6	1,241
平成25年度	5,721	14,799	12.9	1,147
平成26年度	7,126	18,264	15.5	1,180
平成27年度	6,119	18,908	17.0	1,109
平成28年度	6,437	21,219	21.0	1,010

表1 近年は毎年1000人ほどしか輩出されない状況

くれるところがありました。CAD/CAMでは言つてみれば白黒がはつきり付き過ぎる。そのために、外側性窓洞はまあまあですが、インレーのような内側性窓洞の場合、CAD/CAMよりもワックスアップして手で作った方がフィットします。技術の進歩の伸びしろは、まだあると思いますが…。

—CAD/CAM冠の適用が大白歯まで拡大されましたか

酒井 もう少し硬い材質で作つてほしいというのが現場の本音ではないでしょうか。4番、5番がハイブリッドというのはまだしも、6番、7番になればもう少し硬いものを使いたい。ブリッジで樹脂系の材料はどうなの?という不安はあります。当面は様子見というところです。

歯科助手としての役割を通じて歯科技工士に診療を学ぶ機会を

—今後、よりよい補綴物を提供していくためには何が必要でしょうか

酒井 やはり若い歯科技工士をどのようにして育てるかが最も重要な点ではないでしょうか。受け入れるラボの就労環境の問題もあると思いますが、大手のラボの一部が分業制していることも、人が集まらない、人が育たないと言う理由の一つだと感じています。一人の歯科技工士が、一つの補綴物をトータルで作ることができないというのはやはり困ります。当法人がいま検討しているのは、新卒の歯科技工士の方を歯科助手と

—良い協力関係を構築するために大切なことは

酒井 現在の制度では、どうしても歯科技工士と患者さんの距離は近いものにはなりません。加えて、基本的に患者さんの情報は歯科技工士には模型の形でしか届きません。お互いに人間ですから、歯科医師が形成や印象が下手な上に、短い納期を要求したりすれば、優秀なラボほどたくさん仕事を抱えていますから、当然ストレスは高まります。

—良いの仕事を知ることから始まる

酒井 現在の制度では、どうしても歯科技工士と患者さんの距離は近いものにはなりません。加えて、基本的に患者さんの情報は歯科技工士には模型の形でしか届きません。お互いに人間ですから、歯科医師が形成や印象が下手な上に、短い納期を要求したりすれば、優秀なラボほどたくさん仕事を抱えていますから、当然ストレスは高まります。

—良い協力関係を構築するために大切なことは

歯科技工士は、自分が作ったものがどのように患者さんの口の中で機能しているのかを見ること、知つておることは必要だと思いません。

ただし、むやみに歯科医院にて立会いと称して見学ばかりしては、仕事になりません。どれだけ効率よく、実のある「コミュニケーションを図るか」ということも、仕事の技術の一つだと思います。

うことがよく分かります。特に若い歯科技工士は、自分が作ったものがどのように患者さんの口の中で機能しているのかを見ること、知つておることは必要だと思いません。

ただし、むやみに歯科医院にて立会いと称して見学ばかりしては、仕事になりません。どれだけ効率よく、実のある「コミュニケーションを図るか」ということも、仕事の技術の一つだと思います。